



M I G A コ ラ ム

「世界診断」

2016年2月16日

東西におけるそれぞれの難民事情

劉 曉燕

明治大学研究・知財戦略機構 共同研究員



中国上海出身で、1998年同済大学日本語学科にて、日本語を学び、2001年奈良教育大学に留学。2005年同大学（Bachelor of Education）卒業後、東京大学公共政策大学院（Master of Public Policy）に進学。2007年4月～2009年3月まで日本政策投資銀行調査部勤務。同年ワシントン大学セントルイス校修士課程に留学。同大学より文学修士号を授与後、ドイツハイデルベルク大学博士課程に進学。2015年7月博士号を取得。2015年9月よりMIGAに勤務。専門は中国近代史。

私は昨年夏、ドイツ最古の大学であるループレヒト＝カールス大学（Ruprecht-Karls-Universität Heidelberg、創立1386年、通称ハイデルベルク大学）より博士号を授与された。博士論文の研究を行った際に、ドイツ北西部に位置する、人口15万人ほどの町、ハイデルベルク（Heidelberg）に三年半ほど滞在した。¹ ハイデルベルクはロマンチックな街として知られ、世界中の人々の人気を集め、日本人の観光客も多い。日本ではあまり知られていないが、第二次世界大戦後アメリカ占領軍総司令部、そして欧米陸軍司令部はハイデルベルクに置かれた。ハイデルベルクの米軍基地はアメリカ政府がドイツに作った200以上の「軍事コミュニティ」の中で、最も重要視されていた。² 冷戦後、米軍基地の規模は急激に縮小し、ハイデルベルクの米軍基地は2014年～15年を目途とし、閉鎖される予定である。³

¹ 2014年12月31日時点154,715万人。

² 私は米国ミズーリ州のセントルイスで留学していた時代（2009年～2011年）に、親しくなっていた神父さんのRobert Lange氏（1931－）は1953年あたりこの米軍基地で駐在しました。在欧米軍の過去と現在について、福田毅「在欧米軍の現状と再編の動向」「レファレンス」（国立国会図書館、2005年8月）参照。

³ JOHN VANDIVER, “USAREUR ANNOUNCED BASE CLOSURES FOR MANNHEIM, HEIDELBERG,” *STARS AND STRIPES*, JUNE 23, 2010, ACCESSED FEBRUARY 1, 2016, [HTTP://WWW.STRIPES.COM/NEWS/USAREUR-ANNOUNCED-BASE-CLOSURES-FOR-MANNHEIM-HEIDELBERG-1.108303](http://www.stripes.com/news/usareur-announced-base-closures-for-mannheim-heidelberg-1.108303).

過去の米軍基地 VS 今日のモデル難民キャンプ

2014年の終わり頃、基地には新たなミッションが与えられた。それは北アフリカやシリア等の紛争地からドイツへと逃れ込んできた難民たちを収容し、難民にとって復活の地となることだった。2014年11月13日に、ハイデルベルク市政府とドイツ政府の協議のより、1947年に建設された米軍及びその家族を収容してきた団地、Patrick Henry Village (1947 - 2013)⁴を難民キャンプとして稼働させることが決まった。当時の協議により、同団地は最大2000名の難民のみ収容する予定だったが⁵、2015年11月時点既に5500名の難民を収容することとなった。⁶かつて「自由を与えよ。然らずんば死を」(Give me Liberty, or give me Death!)という名文句を後世に残し、アメリカの独立に大いに貢献したパトリック・ヘンリー氏(Patrick Henry, 1736 - 1799)の名前で命名されたPatrick Henry Villageは難民キャンプに生まれ変わり、今後ドイツ全土で進められる難民支援プロジェクトの先行モデルプロジェクトとして期待された。入居した住民によると、キャンプ内では一日朝と昼二食が提供され、市内への移動には、無料シャトルバスが利用できる。生活の面で、小さな不満はあるが、人生の出口が見えないまま、船の中で地中海の上を漂ったのに比べ、同キャンプでの暮らしは希望に満ちているようだ。⁷

ハイデルベルクでは、難民と現地住民とが、表向きにはまだ穏やかな関係を維持しているが、ハイデルベルクから、日本の新幹線に相当するドイツのインターシティ・エクスプレス(ICE: Intercity-Express)に乗って、約2時間、世界に愛されるゴシック様式のケルン大聖(Kölner Dom)を誇るケルン(köln)の地で、2015年大晦日の日から2016年新年の日にかけて特別の日に、全世界が注目する集団性暴行事件が発生した。事件が起きてから、すでに一か月経ったにもかかわらず、真相はまだ解明されていない。本当に一部のアラブ系の難民による集団的仕業なのか、そしてドイツ政府は事件に関する情報開示を故意的に遅らせていたのか、さまざまな疑問が残されている。大量の難民がドイツに押し寄せ、地元の人々の暮らしに暗い影を落としていることはもはや否定できない事実である。今後寛容な難民受け入れ政策を推し進めたメルケル政権はどのようにそれを修正していくのか、そして台頭しつつある国内の保守ないし右翼勢力とどのようにせめぎ合っていくのかはドイツ国内政治の注目ポイントでありながら、EU及び世界の政治情勢に影響を与える敏感要素になるのではないかと。

⁴ 同団地はかつてピーク時16,000人の米軍及びその家族を収容しました。

⁵ Holger Buchwald, "Flüchtlinge im Patrick Henry Village: Zwischen Bangen und Warten," *Rhein-Neckar-Zeitung*, September 30, 2015, accessed February 2, 2016, http://www.rnz.de/nachrichten/heidelberg_artikel,-Fluechtlinge-im-Patrick-Henry-Village-Zwischen-Bangen-und-Warten-_arid,130372.html.

⁶ Anna Rombach and others, "Refugees stranded at processing camp outside Heidelberg, Germany," *World Socialist Web Site*, November 12, 2015, accessed February 2 2016, <https://www.wsws.org/en/articles/2015/11/12/repo-n12.html>. 政治色彩のある情報源だが、ハイデルベルクにおける一部の難民情報を伝えていると考えられます。

⁷ 同上。

見直される日本のクローズドドア難民受け入れ政策

ドイツをはじめとする欧米諸国と比べ、日本はかなり慎重かつ厳格な難民認定制度を持っている。法務省入国管理局が発表している「平成 27 年における難民認定者数等について」の速報値により、2015 年度において、過去最多の 7586 名（前年比、2586 名増）の難民認定申請者数に対し、最終認定者数はわずか 27 名（前年比、16 名増）だった。人道的配慮を理由として、在留を認めた申請者と合わせて、106 名だったが、⁸ 難民としての認定率はわずか 4%にしか至らなかった。

かつて日本の難民認定制度は英語圏のマスメディアでは、「クローズド・ドア・レフュジー・ポリシー」(Closed-Door Refugee Policy)、いわゆる「門戸閉鎖型難民制度」と揶揄され、お金だけ出すのは真の難民問題の解決につながらないと国内外から批判され続けてきた。⁹ 2015 年 9 月ロイター通信は欧州各国が直面している難民問題を報じる一方、日本における難民認定審査水準の厳しさを対照的に報道した。¹⁰ この報道に対し、日本が長年慎重に行ってきた難民認定政策は世界に評価されることとなった。日本の「クローズドドア」難民政策を擁護するコメントは圧倒的で、「日本に学ぶべきだ」と欧州の難民寛容政策を痛烈的に批判する声も少なくはない。

このような一連の動きにはそれなりの背景があり、日本の「難民受け入れ後進国」という実情を賛美するつもりはない。有識者の指摘通り、「世界の難民の実情について、(私たち)日本人はあまりにも無知で、あまりにも鈍感ではないだろうか。」¹¹ ひとたび、朝鮮半島が有事となれば、北朝鮮から日本へ流入する移民は少なくないだろう。難民問題は日本にとって、決して他人事ではない。このような最悪情勢に対処するために、ヨーロッパの経験及び教訓をいかに汲み取るのかが、将来の難民問題の緩和及び解決につながっていくだろう。受け入れ人数や寄付金額に束縛されず、地縁性や歴史文化などを考慮した上で、独自のアプローチで世界の難民問題に貢献したほうがよいだろう。

⁸ 法務省入国管理局、「平成 27 年における難民認定者数等について」(2016 年 1 月 23 日発表)法務省プレスリリース、2016 年 2 月 1 日にアクセス、http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri03_00111.html。

⁹ 2015 年 9 月に UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) の統計数字に基づき、日本の UNHCR に対する寄付金は、2015 年会計年度において UNHCR に対する寄付金は日本 (1.71 億米ドル) が僅差で 2 位のイギリス (1.76 億米ドル) に続き 3 位だった。1 位はアメリカ (12 億米ドル) だった。(詳細について、UNHCR, “Contributions to UNHCR for the budget year 2015 (as at 18 September 2015),” UNHCR, 18 September 2015, accessed February 3, 2016, <http://www.unhcr.org/558a639f9.html> を参考。

¹⁰ THOMAS WILSON, “AS EUROPE OPENS ITS DOORS, JAPAN CONSIDERS CLAMPING DOWN HARDER ON ASYLUM SEEKERS,” *REUTERS*, SEPTEMBER 10, 2015, ACCESSED FEBRUARY 3, [HTTP://WWW.REUTERS.COM/ARTICLE/US-EUROPE-MIGRANTS-JAPAN-IDUSKCN0R90X620150910](http://WWW.REUTERS.COM/ARTICLE/US-EUROPE-MIGRANTS-JAPAN-IDUSKCN0R90X620150910)。

¹¹ 太田泰彦、「「難民で稼ぐ国」と「難民が稼ぐ国」…日本は「難民を見ない国」」、「日本経済新聞」(2015 年 3 月 15 日)、2016 年 2 月 3 日にアクセス、<http://www.nikkei.com/article/DGXMZO84345190T10C15A3000000/>。